

北海道内科リウマチ科病院

所在地 札幌市西区琴似1条3-1-45

☎ 011-611-1371

スタッフ 谷村一秀院長☆(リウマチ科・内科)、清水昌人副院長☆(リウマチ科・内科)、松橋めぐみ医局長☆(リウマチ科・内科)、磯部将人副医局長(消化器内科・内科)、上田拓実医長(消化器内科・内科)、深江淳医長☆(リウマチ科・内科)、佐藤良博医師(整形外科・リハビリテーション科)、光崎明生医師(整形外科・リハビリテーション科)、伊藤武哉医師(リハビリテーション科)。日本リウマチ学会指導医4人、専門医4人の常勤体制。

特色 09年10月より時計台記念病院リウマチ膠原病センターから約40人のスタッフが移動し、内科専門医療を中心とした新たなリウマチ膠原病疾患の診療拠点を築く。北海道大学第2内科(免疫・代謝内科学分野)、北海道大学整形外科とも連携し、リウマチ膠原病疾患を中心とした慢性期内科疾患を幅広く診療。リウマチ科医師は全員が指導医・専門医を取得している。特に関節リウマチは、リウマチ科医師が内科的側面から診療している他、整形外科は2人の常勤医が診療し、連携を密にしている。さらに上肢・下肢・脊柱などの各部位の整形専門医も診療にあたる。またリハビリテーション専門医によるリハビリ科外来を併設している。当院は内科・リウマチ科・整形外科・リハビリテーション科の4本柱により、連携を充実させ、リウマチ膠原病を含めた慢性期疾患の患者様に対して、専門性を生かした総合的な診療を提供している。また関節リウマチの診断や薬剤による治療効果判定において、関節内を超音波を用いて検査している。全国に先駆けた関節超音波検査は、日本でも有数の技術を提供する施設として、全国から研修希望(医師・技師)が絶えない。当院では関節超音波により、関節リウマチを早期に発見できるようになり、薬剤の治療効果を早くに判定することができるため、薬剤変更の選択に有用である。またコメディカルスタッフ一人ひとりが、各種専門職種を生かし、さらに他部門との連携により、患者様を中心としたチーム医療に取り組み、早期診断・早期治療・ADL(日常生活動作)の改善まで、一貫した治療を実践している。入院病棟(全180床)は障害者病棟も設置し、急性期から慢性期まで様々な疾患ステージをもつ患者様の対応が可能である。リウマチ膠原病疾患は全身疾患のため、急変や薬剤による副作用発生時の処置において入院が必要となった場合は、専門性の高い経験豊かなスタッフにより万全の体制を組んでいるため、安心して治療を受けることができる。またリハビリテーションにより、心身共に癒され、充実した入院生活を提供している。患者様一人ひとりに合った、適切で、安心・安全な医療の提供を目指している。

診療数・治療成績 札幌市のみならず北海道内各地から来院するリウマチ膠原病疾患患者様の月間外来患者数は約2,400人。一般内科を含めて1日外来患者数は約120人で、そのうち関節リウマチ症例が約80%を占める★関節リウマチについては、炎症性サイトカインにより早期から関節破壊を起こすことが判明している。当センターでは、独自の評価法をもとにした関節超音波検査やMRI等の画像診断を含む各種検査を駆使して早期診断・評価に努め、関節破壊防止と患者様のQOL(生活の質)向上を第一目標に、集学的治療を実践している。近年普及している抗リウマチ薬(免疫抑制薬、生物学的製剤等)についても治験段階から臨床研究に参加し、早期より使用して治療効果をあげている。また生物学的製剤を用いた治療数は全道一を誇る。医師・スタッフが臨床研究をもとに、診断・治療評価法やリハビリテーション手技、さらに薬剤有用性などを各分野の学会、研究会で報告を行い、最新の医療を提供すべく新たな知見を得ている★症例数が多いためニーズの多い各種治験についても、治験・倫理委員会を設置して新しい治療方法の普及に努め、臨床研究へ積極的に取り組んでいる★関節病変の早期診断・評価のために有用で近年注目されている関節超音波検査については、古くから導入してノウハウを蓄積し全国に発信している★患者様に対しては専門知識を持った薬剤師が服薬指導を行っている。

医療設備 MRI、CT、X線撮影装置、X線透視装置、関節・各種超音波(パワー Doppler)、消化管内視鏡、心電計、ホルター心電計、血圧脈波検査装置、呼吸機能検査装置、リハビリ室など。

外来診療 月～金の午前午後、土午前。原則として、診察待ち時間短縮のため電話でも診療予約を受け付けている。紹介状の有無は問わない。

谷村 一秀
1955年生まれ。
日本医科大学卒



清水 昌人
1955年生まれ。
北海道大学医学部卒

